

1. 直轄事業(沖縄総合事務局)
(治水) 1件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	沖縄東部河川総合開発事業 オククビ (億首ダム) キン (金武町)	平成5年度 850億円	億首川に億首ダムを建設し、億首川の洪水調節や、かんがい用水、水道用水の確保を図る事業である。	平成25年度完成に向けて、事業進捗を図る。	億首ダムは、災害に強い県土づくりや、安定した水資源の確保に寄与する事業であり、沖縄振興の推進の観点から本事業を継続することは適当である。

再評価を実施した事業

1. 直轄事業(沖縄総合事務局)
(道路) 5件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	一般国道58号 <small>ナゴヒガン</small> 名護東道路 (名護市)	平成9年度 962億円	名護東道路は、高規格幹線道路である沖縄自動車道と、地方拠点都市地域に指定された北部広域市町村圏(12市町村)の中心である名護市を結び、那覇空港や那覇港などの広域交流拠点とをネットワーク化することにより、北部地域の活性化を支援するとともに、名護市街地の渋滞緩和を図る役割を担う道路事業である。	早期の全線暫定2車線供用に向けて、事業進捗を図る。	名護東道路は、高規格幹線道路である沖縄自動車道と、地方拠点都市地域に指定された北部広域市町村圏(12市町村)の中心である名護市を結び、那覇空港や那覇港などの広域交流拠点とをネットワーク化することにより、北部地域の活性化を支援するとともに、名護市街地の渋滞緩和を図る役割を担う事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
2	一般国道58号 <small>オンナ</small> 恩納バイパス (恩納村)	平成元年度 330億円	恩納バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中する本県有数のリゾート地にあり、恩納村内の夏場の観光シーズンにおける交通渋滞の緩和、沿道環境の改善、沖縄自動車道へのアクセス性向上による観光産業の支援に大きく寄与する道路事業である。	完成供用に向けて、事業進捗を図る。	恩納バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中する本県有数のリゾート地にあり、恩納村内の夏場の観光シーズンにおける交通渋滞の緩和、沿道環境の改善、沖縄自動車道へのアクセス性向上による観光産業の支援に大きく寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
3	一般国道58号 <small>カテナ</small> 嘉手納バイパス (嘉手納町)	昭和62年度 286億円	嘉手納バイパスは、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の混雑緩和、北部地域と中南部地域の交流促進と地域振興に資する道路事業である。	早期の全線暫定2車線供用に向けて、事業進捗を図る。	嘉手納バイパスは、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の混雑緩和、北部地域と中南部地域の交流促進と地域振興に資する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
4	一般国道58号 <small>ウラソエキタ</small> 浦添北道路 (浦添市)	平成18年度 250億円	浦添北道路は、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス性向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、浦添市周辺の渋滞緩和、地域交流の促進に寄与する道路事業である。	早期の全線暫定2車線供用に向けて、事業進捗を図る。	浦添北道路は、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス性向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された2環状7放射道路として、浦添市周辺の渋滞緩和、地域交流の促進に寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
5	一般国道329号 <small>キノザ</small> 宜野座改良 (宜野座村)	平成2年度 70億円	宜野座改良は、災害時等にも資する幹線道路としての機能向上、交通安全の確保、地域交流の促進を目的とした道路事業である。	早期の全線供用に向けて、事業進捗を図る。	宜野座改良は、災害時等にも資する幹線道路としての機能向上、交通安全の確保、地域交流の促進を目的とした事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。

1. 直轄事業（沖縄総合事務局）

(公園) 1件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	ヨクエイオキナワキネンコウエン 国営沖縄記念公園	昭和50年度 (海洋博地区) 昭和61年度 (首里城地区) 1,170億円	沖縄の本土復帰を記念する事業の一環として、昭和50年に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」と、昭和61年度より首里城の整備を進めている「首里城地区」からなる国営公園である。	施設整備の充実を図りつつ、平成29年度末までに公園全体の開園を行う予定。	国家的な記念事業（沖縄国際海洋博覧会の記念、沖縄復帰記念事業）として閣議の決定を経て設置された公園であり、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とすることや沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図ること等を基本方針に整備を行っている。また、年間入園者数は約540万人（平成22年度）であり、県外から沖縄県に訪れた入域観光客数と同程度の水準を記録しており、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。

再評価を実施した事業

1. 直轄事業（沖縄総合事務局）

(港湾) 6件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	ナハコウ ウラシエ トウチク コクナイブツリョウ 那覇港浦添ふ頭地区国内物流ターミナル整備事業	平成9年度 179億円	那覇港の物流効率化を図り、更に航行船舶及び荷役作業の安全性と効率化を確保する観点から、浦添ふ頭岸壁及び防波堤の整備を図る。	事業が順調に進めば、平成20年代後半の完了を予定している。	那覇港の物流機能の強化を図るため、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。
2	ナハコウ トマリ トウチク リョキヤクセン 那覇港泊ふ頭地区旅客船ターミナル整備事業	平成18年度 169億円	那覇港における国際観光の発展を支援するため、また、貨物岸壁との併用解消による旅客の安全性の確保及び荷役作業の効率性を確保する観点から、旅客船専用の岸壁の整備を図る。	平成21年9月に暫定供用済であり、現在、南側に抜けるアクセス道路を整備中。今後も鋭意整備を進め、平成20年代後半の完了を予定している。	沖縄における観光客受入体制整備のため大型クルーズ船に対応した旅客船ターミナル整備は重要であり、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。
3	ナカグスタワンコウ シンコウチク コクサイブツリョウ 中城湾港新港地区国際物流ターミナル整備事業	平成4年度 461億円	中城湾港新港地区及び周辺に立地する企業の物流効率化を図るとともに企業進出促進の観点から物流ターミナルの整備を図る。	岸壁(-11m)は概成しており、現在、航路・泊地の浚渫を実施中。今後は鋭意整備を進め平成20年代後半の完了を予定している。	中城湾港新港地区における特別FTZや周辺に立地する企業の物流効率化を図るため、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。
4	ヒララコウ ホンコウチク ボウハタイ セイビ ジギョウ 平良港本港地区防波堤整備事業	昭和60年度 730億円	海難事故の回避、安定した定期航路運航の確保の観点から防波堤の整備を図る。	事業が順調に進めば、平成30年代前半の完了を予定している。	宮古圏域の拠点としての平良港の機能を高めるため、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。
5	インガキコウ シンコウチク リョキヤクセン 石垣港新港地区旅客船ターミナル整備事業	平成17年度 108億円	石垣港における国際観光の発展を支援するため、また、貨物岸壁との併用解消による旅客の安全性の確保及び荷役作業の効率性を確保する観点から、旅客船専用の岸壁の整備を図る。	関連する防波堤や泊地を先行的に整備しており、今後鋭意整備を進め、平成20年代後半の完了を予定している。	沖縄における観光客受入体制整備のため大型クルーズ船に対応した旅客船ターミナル整備は重要であり、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。
6	インガキコウ ホンコウチク リトウ 石垣港本港地区離島ターミナル整備事業	平成15年度 87億円	石垣港における既存施設の利用上の問題を改善及び市街地の安全の確保の観点から危険物取扱施設の新港地区への移転や、離島ターミナル、浮桟橋の整備を図る。	離島ターミナルビルが平成19年度に完成し、現在、離島フェリー対応の岸壁等を整備中。今後鋭意整備を進め平成20年代後半の完了を予定している。	石垣港の利用者の利便性向上や機能強化や市街地の安全確保を図るため、本事業を継続することは沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。

2. 補助事業(沖縄県)
(治水) 1件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興推進の視点からの評価
1	<small>ギマガワ</small> 儀間川総合開発事業 <small>ギマ</small> (儀間ダム、タイ原ダム) <small>クメジマチョウ</small> (久米島町)	平成16年度 130億円	儀間川に儀間ダム、謝名堂川にタイ原ダムを建設し、両河川の洪水調節及び正常流量対策、久米島町の水道用水の確保を図る事業である。	以下のとおり、事業の見直しを行う。 (1)儀間ダムについては、平成25年度完成に向けて、事業進捗を図る。 (2)タイ原ダムについては、中止する。	久米島町の水道用水は儀間ダムにより確保される。また、沖縄県の検証の結果、タイ原ダムによる既得かんがい用水の一部補給の緊急性が低くなったことが確認され、謝名堂川の治水対策としては河道改修(引堤)案が優位であるとされた。したがって、タイ原ダムの中止による本事業の見直しは妥当である。

再評価を実施した事業

2. 補助事業（沖縄県）1件
（空港） 1件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	シンインガキクウコウセイビ ジギョウ 新石垣空港整備事業	平成17年度 451億円	中型ジェット機の就航を可能とするとともに運航制限の解消を図る。 （滑走路長：1,500m → 2,000m）	用地造成はほぼ完了しており、平成23年度からは航空保安無線施設に着工した。今後は鋭意施工を進め平成25年3月の事業完了を図る。	新石垣空港は、離島の生活向上や産業振興などの面で大きな効果をもたらすことから、本事業を継続することは、沖縄振興計画の着実な推進を図る観点から適当である。